

報告事項ク

「豊かな人権文化を築く学校づくり事業」の取組状況について

「豊かな人権文化を築く学校づくり事業」の取組状況について、別紙のとおり報告します。

令和7年3月15日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

「豊かな人権文化を築く学校づくり事業」の取組状況について

令和7年3月15日
人権教育課

1 魅力ある学校づくり支援事業

人権尊重の視点に立った学校づくりに向けた取組としていじめ・不登校の防止等につなげる研究を行い、自尊感情等の向上をめざし、有識者の招聘など学校の主体的な取組を支援した。

研究指定校（区）	取組内容等
<p>鳥取市立湖東中学校区</p> <p>「学校が楽しい」 R6.7: 89.3% → R6.12: 90.8% (+1.5) (児童生徒アンケートより)</p> <p>「違いを肯定的に捉え、異なる意見の交流を意識して進めている」 R6.5: 92.3% → R6.12: 97.3% (+5.0) (数字は校区全学校の肯定的回答を記載) (教職員アンケートより)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・久我直人教授（鳴門教育大学）を招聘し、研修会を実施するとともに校区の全小中学校を訪問し指導助言を実施した。 ・「勇気づけ教育」の考え方を校区全教職員で共通理解し、「聞くことの徹底」、「児童同士の相互承認」、「教師から児童生徒へのポジティブな声かけ」など信頼をベースにした教育活動を組織的に展開できる教職員集団づくりに取り組んだ。 ・湖東中学校では、制服の変更(R7)に関連する取組として、多様な性のあり方に関する PTA 人権教育研修会を実施した（ファシリテーター派遣事業の活用）。 <p>＜先生方の声＞ （※取組分析の詳細は添付資料を参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耳を傾ける機会を持つことに比例して、信頼してくれる生徒の存在を感じる。少しずつだが生徒に自信がついている。 ・子どもの間に流れる空気感が穏やかになってきている。 ・教師が行う勇気づけの声かけから子ども同士の優しい声かけや学習を教え合う雰囲気へと高め、学力向上につなげたい。
<p>倉吉市立西中学校</p> <p>「自分にはよいところがある」 R6.6: 78.4% → R6.12: 88.1% (+9.7) (生徒アンケートより)</p> <p>「違いを肯定的に捉え、異なる意見の交流を意識して進めている」 R6.5: 81.8% → R6.12: 92.9% (+11.1) (数字は肯定的回答を記載) (教職員アンケートより)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小栗正幸氏（特別支援教育ネット代表）を招聘し、教職員研修を実施した。 ・配慮が必要な生徒の具体的な姿を通して、ユニバーサルデザインによる支援のあり方及び生徒指導等について共通理解を図り、日々の教育活動場面で取り組んだ。 ・「自尊感情」をテーマにした PTA 人権教育研修会を当該が実施した（ファシリテーター派遣事業の活用）。 <p>＜先生方の声＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（生徒指導の際）頭ごなしではなく、背景を考えることで自分自身も納得し、気持ちの面で楽になることが多くあった。 ・つい否定的に説明したり話をしてしまうことがある。明快な伝え方ができるように、肯定的な話し方を意識したい。
<p>米子市立淀江中学校</p> <p>「学校が楽しい」 R6.7: 84.3% → R6.12: 90.0% (+5.7) (生徒アンケートより)</p> <p>「児童生徒が抱える問題の背景を探り、理解に努めている」 ・肯定的回答 R6.12: 100% ・当てはまるのみの割合 R6.12: 60% (指定校平均 R6.12: 47.7%) (教職員アンケートより)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山澤 重美 氏（境港市教育委員会指導係）、伊部 加代 氏（長浜市立びわ南小学校）を招聘し、教職員研修を実施するとともに学年ごとのケース会議での指導助言を実施した。 ・生徒の抱える課題の要因や背景に目を向けたアセスメント及び具体的なプランニングに基づき、生徒及び保護者へアプローチすることができた。 <p>＜先生方の声＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背景を考えることで、子どもたちの行動に対して冷静にプランニングできるようになった。また、背景を見立てた声かけをすることで、自己肯定感を育てることにつながっている。 ・学年や外部機関とチームで連携しながら対応できた。

2 ファシリテーター派遣事業について

人権教育プログラム（社会教育編）等を活用した保護者等への研修の実施を希望する学校（PTA）等に対し、学習促進者となるファシリテーター（各市町村の人権教育推進員等）を派遣した。

<派遣実績> ※（ ）：昨年度実績

派遣した学校PTA等	市町村数	学校PTA等の数	参加人数
公立小学校PTA	8（8）	20（21）	603（666）
公立中学校PTA	4（5）	5（7）	113（179）
義務教育学校PTA	0（0）	0（0）	0（0）
県立学校、その他		5（3）	156（120）
	合計	30（31）	872（965）

<参加者アンケート結果>

全学校・PTA対象項目	肯定的回答（％）	参考（昨年度・一昨年の数値）
研修の内容は、身近なことだと感じましたか。	98.2％	R5:97.9%、R4:98.2%
新しい気づきや疑問が生まれるものでしたか。	98.4％	R5:98.5%、R4:96.6%
進んで考えたり、話し合ったりできましたか。	98.1％	R5:99.0%、R4:98.1%
今後取り組んでみたいことがありましたか。	99.2％	R5:98.6%、R4:99.9%
ねらいや内容は理解できましたか。	99.6％	R5:99.6%、R4:98.9%

<PTA人権教育研修会の様子>



～参加者の声（アンケートより）～

- ・「ふつう」って何かを保護者の方と共有できて、とても良い時間でした。何気なく使う言葉であるからこそ、それを子どもに押し付けていないか、今一度自分を振り返りたいと思いました。
- ・保護者同士のコミュニケーションができ、参加型でよかったです。子どもの日々の表情から様子をうかがって、コミュニケーションにつなげていきたいです。相手を思いやる声かけをできるようにしていきたいです。

<人権教育プログラム（社会教育編）ファシリテータースキルアップ研修会の様子>



～参加者の声（アンケートより）～

- ・参加者がワクワクして参加し、「自分たちで考えて進めることができた」という達成感が感じられるように、ファシリテーターとしての立ち位置を考えて進めていきたいと思った。
- ・ファシリテーターをしていく上で、たくさんのヒントをいただきました。考えて話し合うことの大切さを多くの人に伝えられるような研修会ができるように取り組んでいきたいと感じさせてもらいました。
- ・問いを立てること、思いや考えを言葉にして伝え合うことを実践する中で、その大切さを改めて感じました。

【魅力ある学校づくり支援事業】(賀露小学校の事例) ◆児童及び教職員アンケートを基に分析

※鳴門教育大学 久我直人教授の理論(子どもの意識と行動の構造)をベースに作成
(久我直人『潤いのある学級・学校づくりの理論と実践』31頁, ふうろう出版、2019年)

【児童の意識と行動の変容】(※数字は、R6年12月の肯定的割合及び()内はR5の同時期を比較したもの)

「学習意欲・理解」 **自律的な学び**

- ・「授業にすすんで取り組んでいる」
R6:97.7% (+3.8)
- ・「授業がよくわかる」
R6:95.7% (+4.0)

「人のことを大切に聞くこと」 <生活規範> 「聞く」の徹底

- (※教職員アンケート(記述)より)
- ・声をかけた分だけ、体を向けて、聞く子どもが増えてきた。
 - ・友達の発言を聴く時に、顔を向けて話を聴くことが増えた。
 - ・子どもが少しずついろいろな話を聞かせてくれるようになった。

<相互承認> **【人権】意見表明・参画**

- ・「みんなと話し合っ、学級や学校の課題を解決しようとしている」 R6:91.0% (+5.1)
- ・「みんなと話し合っ、より楽しく生活するためにアイデアを出し、取り組んでいる」 R6:88.6% (+6.2)

「教師への信頼」

- ・「学校の先生は私のことをわかってくれている」
R6:96.0% (+6.6)

「友達への信頼」

- ・「友だちから大切にされている」 R6:97.7% (+1.9)

「自分に対する信頼」 **【人権】自尊感情**

- ・「自分のよいところを知っている」 R6:87.8% (+6.7)

【学校・教職員の組織力】(※アンケート及び聞き取りから)

【人権】人権尊重の職場環境

【組織的展開力】

心理的安全性

【チャレンジ風土】

【教員間の勇気づけ】

【聞くこと】【勇気づけ】の価値共有

【教職員の意識(変容)】(※数字は、R6年12月の肯定的回答の割合。()内はR6年5月と比較したもの。
【 】内は4件法「当てはまる」のみの割合。←特に変化の大きいもののみ記載)

- 【期待・活躍】「どの児童生徒にも成長を期待し、活躍する場(機会)を設けている」
R6:100% (+5.8) ※【「当てはまる」のみの割合 5月:11.8%→12月:35.3% (+23.5)】
- 【意見交流】「児童生徒一人一人の違いを肯定的に捉え、児童生徒同士の異なった意見の交流を意識して進めている」
R6:94.1% (+11.7) ※【「当てはまる」のみの割合 5月:11.8%→12月:29.4% (+17.6)】
- 【勇気づけ】「児童生徒のよい行動や成長した様子を積極的に見つけて、声をかけたり、他の児童生徒に紹介している」
R6:100% (±0)
- 【深い子ども理解】「児童生徒が抱える問題の背景を探り、理解に努めている」
R6:100% (+5.9) ※【「当てはまる」のみの割合 5月:35.3%→12月:41.2% (+5.9%)】
- 【教員同士の関係性】「特別な支援や配慮が必要な児童生徒への対応等で悩んだ時も、相談できる教職員等が身近にいる」
R6:100% (±0) ※【「当てはまる」のみの割合 5月:64.7%→12月:76.5% (+11.8)】